

## 文部科学大臣メッセージ

### ～長崎大学医学部原爆犠牲者慰霊祭～

本日、被爆75周年を迎える長崎大学医学部原爆犠牲者慰霊祭が執り行われるにあたり、犠牲者の御霊に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

75年前の今日、投下された1発の原子爆弾によって、我が国の近代西洋医学教育発祥の医学校である長崎医科大学、附属医学専門部、附属薬学専門部、附属医院、東亜風土病研究所、看護婦寄宿舍等は、一瞬のうちに壊滅し、夏休み返上で授業が行われていた最中の学生、教職員合わせて898名もの尊い命が奪われてしまいました。

志半ばで非業の最期を遂げられた学生、教職員の無念さを思うと、お慰めの言葉もございません。

また、犠牲となられました方々の御遺族の悲しみと今日に至るまでの御労苦は、いかばかりかと拝察する次第でございます。

この忌まわしい災禍により、人的、物的それに精神的にも絶望の淵にあつて、廃校の危機に直面しながらも、先人の弛まぬ献身的な御努力によって、長崎医科大学は再起し、昭和24年5月には国立学校設置法の公布・施行により、新生、長崎大学医学部となり、その後の幾多の困難を克服して今日を迎えておられます。

このような歴史を持つ長崎大学医学部は、原爆被爆者の後障害研究を力強く推進し、その後、医学部から派生した原爆後障害医療研究所は、旧ソ連のチェルノブイリ原発事故を契機に国際レベルでの放射線医療支援、分子疫学調査とその活動範囲を拡大し、世界的にも多大な貢献をしてこられております。これらの研究活動や実績が、9年前、福島で起きた原発事故後の福島県立医科大学の緊急被ばく医療の再構築、福島県民へのリスクコミュニケーションと健康調査の実施や、大学院教育を通じて、我が国のみならず国際的な人材育成などに大きく生かされているところでございます。

また、長崎大学は、学問的調査・分析を通して核兵器廃絶に向けた情報や提言を世界に発信することなどを使命とする国内唯一の教育

研究施設として、核兵器廃絶研究センターを8年前に設置され、世界平和のための教育・研究に取り組んでおられます。

今後、放射線被ばく医療等の研究や核兵器廃絶への研究が益々発展し、今なお、放射線障害で苦しむ世界の人々や恒久平和を希求する世界の人々に貢献されますことを心から願って止みません。

最後になりますが、政府といたしましてもこのような悲劇を二度と繰り返すことのない平和な世界の実現に向けて努力する所存でございます。

改めまして、犠牲となられた方々の御冥福と御遺族の皆様の今後の御多幸、並びに長崎大学の益々の御発展をお祈り申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

令和2年8月9日

文部科学大臣 萩生田 光一